

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社オペラシアターこんにゃく座
公演団体名	オペラシアターこんにゃく座

内容
<p>本来であれば、本公演に参加していただくことを目的として、劇中歌の練習をワークショップのメインプログラムとしておりますが、コロナ感染予防の観点から、今年度も各学校で授業内の合唱を控えている現状を踏まえ、訪問してのワークショップは行わず、教材をお送りし、演目に親しんでいただくことを代替案とします。</p> <p>劇中歌「森へ向かうソリの歌」「十二月の歌」の楽譜と音源を渡し、音楽の授業で聞いて（覚えて）いただいたり、校内放送が可能な時間に流していただくなど、曲に親しんでいただきます。</p> <p>また映像DVDを作成配布し、次の紹介を行ないます。</p> <ol style="list-style-type: none">1 / 劇団紹介をしつつ、劇団名の由来となっている「こんにゃく体操」を行ないます。2 / 「オペラ」とはどのようなものか、“演劇”と“オペラやミュージカル”の違いは何か、実演をまじえて解説します。3 / 『森は生きている』の物語を紹介し、本公演を観る前にイメージを膨らませてもらいます。 <p>映像資料をご覧いただき、児童生徒が興味を持ったことや疑問を持ったことなどがあるようなら、本公演前に感想や質問（答え）を学校と劇団とのあいだでやりとりできるような対応も図っていきます。</p>

タイムスケジュール（標準）
映像教材は20分でご覧いただけるものをお送りします。授業中、あるいはホームルームの時間などご活用いただければ幸いです。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
指導者 0 名
スタッフ 0 名
合計 0 名

学校における事前指導
事前にお送りする教材（音源や映像資料）を使い、ワークショップの代替策として、本公演に対するイメージを児童生徒に膨らませてもらうようご指導下さい。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社オペラシアターこんにゃく座
公演団体名	オペラシアターこんにゃく座

演目
オペラシアターこんにゃく座公演 オペラ『森は生きている』

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者 13名
スタッフ 6名
合計 19名

タイムスケジュール（標準）									
【午後公演】の場合									
8:00				12:00	13:00	13:15		14:55	16:25
到着	搬入	設営	稽古	昼食	開場	公演		終演 撤去 搬出	退出
【午前公演】の場合									
7:00	10:20	10:35		12:15	13:15	14:45			
到着 設営	搬入 稽古	開場	公演	昼食	撤去	搬出	退出		
*午前公演の場合は、前日に仕込をさせていただく場合があります。 時間帯は学校と個別にご相談いたします。 *開場・開演時刻は目安です。各校の授業時間に合わせ調整します。									

実施校への協力依頼人員
1 / <u>ピアノがステージ上にある場合は、ピアノをフロアへ下ろします。</u> <u>男性の先生を中心に5名ほどお手伝い下さい。</u>
2 / 体育館が2階以上の場合、可能であれば搬入・搬出の協力を5名ほどお願いします。

演目解説

森へたきぎ拾いに来た働きものの娘は、偶然出会った兵士から不思議な話を聞いた。それは大晦日、森でひそかに交わされる「時」をめぐる十二の月の精の秘めごとだ。

いっぽう宮殿では、今日も女王が家庭教師である博士を困らせている。気まぐれな女王が、真冬にもかかわらず四月に咲くマツユキ草をほしいと言い出したのだ。褒美の金貨に目のくらんだ欲深い継母と姉娘のいいつけで、吹雪の森に分け入った娘は、そこで十二の月の精たちと出会う。

娘から事情を聞いた「四月」の精は、他の月たちに頼み、一時間だけ「時」をゆずってもらう。冬から春へたちまち季節はめぐり、なんと娘の前にマツユキ草が！

家で待ちかまえていた継母たちは、帰ってきた娘からマツユキ草を取り上げ、「四月」の精が娘に贈った指輪をも横取りすると、いそいそと褒美を受け取りに宮殿へ。だが、事の顛末を女王に問われ、答えに窮した継母と姉は、ついにありのままを白状。奪った指輪は女王の手へ。

女王は、遠乗り会よろしくソリを走らせ、家来全員を連れ森へと向かう。娘にマツユキ草はどこで摘んだのかと迫るが、決して人には話さないという「四月」の精との約束に、固く口をつぐむ娘。それに腹を立てた女王は、指輪を雪のなかへと放り投げてしまう。それが秘密のカギだった。

あたり一面に咲くマツユキ草。しかしそれは一瞬にして消え、驚く女王たちの目の前で季節が次々と移りかわっていく。そしてあたりはふたたび真冬の森へと元通り。凍えて森をさまよった女王は、森という自然の大きな力のなかで、自分が一人の人間でしかないことを思い知らされる。女王は人に命令するだけではなく、「お願いする」ということを初めて知る。

大きく成長した女王と娘は、親友になることを誓い、ともに帰っていき、十二の月たちは、また「時」を紡ぐ旅へと旅立っていく。

サムイル・マルシャーク原作の「森は生きている」は、日本では1954年劇団俳優座の初演から50年以上もの間、舞台上で親しまれている作品です。初演の舞台に林光が劇音楽として作曲した曲は、多くの人に歌われ続け、本作品をこんにやく座がオペラ化したのが1992年。以来全国各地で子供から大人まで幅広い層のお客様に鑑賞されています。

「時の不思議」や「人と人とのつながり」、「大自然の奥深い営み」といった深いテーマを含みながらも、さまざまな仕掛けが繰り広げられ客席からは絶えず笑いがあふれる舞台。林光の豊かな音楽が12人の歌役者、1人のピアニストによって繰り広げられ、あたたかさや元気をもたらすオペラです。

厚生省（現厚生労働省）中央児童福祉審議会推薦 平成10年度推薦文化財
第18回三菱UFJ信託音楽賞 奨励賞

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- 1 / 事前に教材を送り、親しんで（覚えて）いただいた「森へ向かうソリの歌」「十二月（じゅうにつき）の歌」を、本番中、出演者の歌に合わせて、一緒に楽しんで（声には出さずに歌って）もらいます。

児童生徒とのふれあい

- 1 / 学校側の要望に応じ、設営や片付け時の見学が可能です。
※密になることを避けるため、人数制限や時間制限など、ご相談のうえ進めさせていただきます。